

やすらぎ



「歎異抄」 後序 続き

まことに、われもひともそれごとをのみもうしあいそうろうなかに、ひとついたまじきことのそうろうなり。そのゆえは、念仏ももうすについて、信心のおもむきをも、たがいに問答し、ひとつにもいさかするとき、ひとつのくちをふさぎ、相論をたたかいたんがために、まったくおおせにてなきことをも、おおせとのみもうすこと、あさましく、なげき存じそうろうなり。このむねを、よくよくおもいとき、こころえらるべきことにそうろうなり。これさらにわたくしのことばにあらすといえども、経釈のゆくじもしらす、ほうもん法文の浅深をこころえわけたること、こしんらんこそうらわねば、さだめておかしきことにてこそそうらわめども、古親鸞のおお

「歎異抄」(第五十五回)

樺 暁 講述

せことそうらいしおもむき、百分が、かたはしばかりをも、おもいいでまいらせて、かきつけそうろうなり。
(真宗聖典六四一頁)

虚偽を云っている中で、悲しく情けないことがあります。他力の信心の内容を弟子達が語って、分かった人に尋ねたり、応えたり、又、他の人に言い聞かせようとする時、道理を静かに自分はこの様に受けたまわっております、という云い方をしないで、相手の口をふさぎ、相手にものを云わせない様にして、力づくでものを云う。つまり、勝他の世界に転落する。仏教の信心の世界に勝ち負けはない。「法論は、いづれ勝つても釈迦の恥」という川柳があります。仏弟子が議論して、どっちが勝つてもお釈迦様が勝ち負けの世界を説いていたわけではない。仏弟子達

光照寺寺報
 発行所
 真宗大谷派 弘興山
 宗教法人光照寺
 〒331-0821
 さいたま市北区別所町102-2
 電話：048-651-2781代
 FAX：048-651-2753
 E-mail
 yasuragi@beige.ocn.ne.jp
 ホームページ
 http://koshoji76.jp
 発行人 池田孝郎

が勝ち負けの世界に転落していったことは、お釈迦様の教えが実行されていないということ。信心をはつきりする為に議論することは結構なことだが、それがややもすると、勝ち負けの世界に落ち込んでしまっている。これは、親鸞聖人が仰っていないことを、聖人が云われたのだと云って、自分の説を聖人が云われたことだと偽って云うこと。このことはあさましく、悲しむべきことです。この主旨を了解してこういうあさましいことに落ち入っていないか、よく自分にたずねてそのことをはつきりと思いさだめることが大事なことです。

親鸞聖人が亡き後、約三十年後に成立した『歎異抄』、唯円大徳は少しでも思いいでてここに『歎異抄』という書物を著したのです。

（当寺）ご法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照 次回へ続く



報恩講師 廣瀬惺先生



報恩講の様子

春季彼岸会法要 三月二十一日木午後一時三十分厳修
 子供会報告
 旅行記
 詳細は三頁
 詳細は二頁
 詳細は四頁



この度は、私事を頂き、生・老・病・死の四苦に尋ね、現実と真向い、私の思うところを吐露してみたい。何にか、大上段に振りかぶっている様な表現であり、お許し願いたい。

私はこの年明けの一月八日が誕生日で七十七歳の喜寿を迎えた。実は、癌の告知を昨年の十月半ばに受け、いつ死んでも可笑しくないとする、医学的知見診断は「小細胞がん stage Ⅲ 進行がん。無治療の生存期間中央値3ヶ月、(50位) 1~100位」、である。

昨年七月半ばより「脳ドック」検査を受け色々検査が進行し、最終的には「胸腔鏡に依る検査」で「組織細胞」の一分を取り、結果、「小細胞癌」と診断されたのです。早期発見で良かったと思うのも束の間、「小細胞癌」は、抗がん剤が一番、薬の薬効があり、癌細胞が縮小するタイプの癌で、癌の中でも「一番薬が効く癌」との事です。これだけ聞けば、良かった、癌細胞が縮小する、癌が最も治る癌かと思いきや、抗がん剤が効いて縮小するが、ある時点で増殖し、それに適合する抗がん剤の配合の調査は難しく、喻え調査して効いても、増殖を繰り返す細胞であるとのことです。この癌細胞も私自身の肉体、生命体の細胞であり、私、自身でもあります。

癌にも色々種類があり、驚くこととあります。普通、素人であり、医学の専門でない我々患者は、癌に色々種類があるとは知っておりません。只、「癌」だけでありましよう。

丁度、昨年の十月二日(火)のニュースで、本庶佑京都大特別教授が生理学・医学の分野でノーベル賞を受賞すると知っておりまし

ので、「がん免疫療法」の恩恵に浴することが出来ると喜んだのも束の間、小細胞癌は保険適用されない、自費負担であり、それも、臨床医学では、「小細胞癌」の効果は立証されていないので、自費負担で治療しても、どこまで投与が続くのか、又、止める時点はいつなのかが分からないとの事。喜びも束の間でありました。

こうして原稿を書いている、つい先日、一月十七日(木)の新聞ニュースで、「がん患者 新たに99万人」「大腸」トップ、16年の実数集計」とあり、私の肺癌は、全体の三位であり、男性の一位は胃癌、女性の一位は乳房癌とのこと。今後は、新制度のデータが毎年発表される。5年生存率については、23年に最初の公表を行う予定だとのこと。

私がふと思いついた言葉は、「ピットラーの言葉」である。「一人殺せば殺人であるが、大量殺戮は統計数字である。」と。何にかにつけて全ての数値が統計化されて表現される。「生死」は「統計」ではない。「生死観」、「死生観」を「現前の自己」と頂きたい。

南無阿弥陀仏。合掌

真の依り処

私は何も知らない愚か者でした。わずか物心がついてから現在までほんのちよっぴり経験した事、自分中心に考え良かった悪かったとかで、はたして本当にそれで良かったのか、違っていたのか、皆目、解りません。それを自分が知っている等言ってしまう愚か者です。愚かさを私の事実として実感しています。この事実を南無阿弥陀佛の用事で懺悔させて頂き、その心が解放され、阿弥陀様より与えられた還相を精一杯生きる事でしょうか。「罪悪生死の凡夫」沢山の悪業煩惱がある我身、今日造った業ではなく宿業です。ずっと昔に於いてそくばくの業もっている身です。この身を証明されるのは佛のみです。私は障りだらけの身であり、障りが少しでも柔軟にさせて頂き無明の闇を破していただけますように。岡田ノリ子

鈴の音

我が身を深く悲しむ心に
仏法の言葉が響く

宮城 顛

(「真宗の基礎」より)



今年こそ、身を正して歩むと誓いはすれども、年の瀬にはさほど進展も無く終えていく。同じ一年、同じ一日は無いということを教えられながらも何か大切なものを忘れてしまっていないか、と問い返します。私たちはまことの世界から常に問われています。空しくない人生を歩みたいと願うとき、手が合さり、お念仏になります。お彼岸を通して本当に手が合さることをみつめてみませんか。亡き人を偲びつつ一緒にお念仏しましょう。副住職(釈徹照)

春季 彼岸会法要

- ・3月21日(木)春分の日
- ・午後1時30分～3時30分まで(1時受付)
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。預骨されている方は率先してお参り下さい。ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- ・3月18日(月)～24日(日)の期間(但し21日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させて頂きます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

子供会報告

光照寺子ども会ポニークラブ
社会科見学「グリコの工場見学」

大塚 陽子

十二月二十五日(火)大人十一人、子ども十一人の参加により、勤行から始まり、自己紹介をし、紙しばい「しんらんさまと白い道」を読み、北本市にあるグリコの工場へ見学する。始めは、グリコができるまでの江崎社長の物語を映像で見た後、ブリッツやポッキーの製造過程の工場の様子を窓越しに見学し、次にグリコに関するのクイズをゲーム形式でやり、昔のグリコの自動販売機やグリコのおまけの展示を見て、おみやげをもらったり、買った。その日はちょうど、来場者数五十万人達成し、



記念の日だった。お寺に戻り、デザートを食べた後、報恩とはく為されたことを知る」というお話を皆んなで読み、最後に恩徳讃をして終わりました。今回は初参加のお友達もいてにぎやかで、工場見学も身近なお菓子の歴史や工程を見学できて有意義な一日でした。次回四月二日(火)です。



本堂にて



本堂にて電車



グリコ工場にて

ひとくち 歎異抄

羅漢：「本願ぼこりとはどういうことをいうのか。」

「本願にほころごころのあらんにつけてこそ、他力をたのむ信心も決定しぬべきことにてそうらえ。」第13章



「弥陀の本願を誇りと思ふ者は、他力の信心も決定する。」

川越喜多院の五百羅漢

旅行記

平成三十年十月十九日(二十日)、光照寺旅行『善光寺・戸隠と親鸞聖人流罪の地を訪ねて』と題して信州と上越へ一泊旅行しました。幹事長平山氏、幹事淡海氏、谷口氏。参加者の方々の感想をお寄せいただきました。皆様はこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

(編集長 副住職池田孝三郎)

【旅程表】

一日目
大宮駅―長野駅―善光寺―堂照坊(宿坊)―戸隠神社宿坊(武井旅館・親鸞聖人堂)―昼食―戸隠神社(中社)―念仏池―赤倉ホテル(泊) 講師・佐々木玄吾師 講題「これ猶師教の恩致なり」

二日目
赤倉ホテル―えしんの里記念館―浄興寺―居多ヶ浜―五智国分寺・竹之内草庵―昼食―居多神社―岩松院(小布施)―長野駅―大宮駅

信州・越後を訪ねて

平山 正三
今回、初めて旅行幹事長を務めさせて頂き、皆様のご協力により無事に旅行を終えることができたことを

感謝申しあげます。

幹事として、快適な旅行を楽しんで頂くには、何よりも天気が良いことでした。どうか二日間大した雨にも合わず終えることができたことで安心しました。

善光寺で、ゆつくりできなかったことは、申し訳なく思っています。戸隠が親鸞聖人との縁があることを知ったことは大きな驚きであり、収穫でした。

はるか霞んだ佐渡島が見える居多ヶ浜展望台で、穏やかな日本海を眺め時、流罪によって、ここに上陸した聖人の心境はどうだったのだろうかと思ひ馳せたとき、教行信証後序の一部に表されているのではないかと思います。

予定以外の見学場所として行った、小布施の岩松院、北斎が書いたと言われる、きれいな色彩で雄大さを感じる龍の天井絵には、ただただ圧倒される思いでした。

今回参加して頂いた皆様並びに頼りない幹事長を支えて頂いた谷口・淡海両幹事さんに感謝を申し上げます。

合掌

旅を味わう

― 戸隠・上越の道 ―

淡海 雅子

幹事を承って今回が何度目の旅行であろうか。例年と違いガイドがないため案内をせざるをえなかった。また、御任職様のご参加がなかったことは幹事一同少しばかり物足



堂照坊にて



善光寺にて



宿坊武井旅館にて

りないものでした。ともあれ今年も無事に終わった事に安堵し、皆様にご感謝申し上げます。

御蔭様で説明をするため学ばせて頂いた。一光三尊阿弥陀如来像に関して信州善光寺、甲斐善光寺、専修寺について、また浄興寺の成立について調べお寺の「縁起」を読んだ。仏教的「縁起」が寺院の由来や起源に用いられている事に違和感があり、寺院の縁起を語る時に伝説などが加味され物語となっていることに気付いた。他との歴史的関係は無視され独自のものとして成立していた為に歴史が事実を踏まえて整合されているという教科書的な前提を否定せざるを得なかった。その点で説明の言葉が充分ではなかったのではな

いかと反省している。

さて、今回の居多ヶ浜は波が穏やかだった。親鸞聖人がこの地を踏まれた頃の状況を浮かべた時に全く違う風景が浮かび上がった。法然上人と出会い法難に遭いながらも

「師教の恩致なり」と教化を意気込み上陸された事でしょうが、現実はその思いを否定せざるを得ないような過酷な状況ではなかったかと思う。「ただ念仏して弥陀にたすけられたまいますべしと、よきひとのおおせをかぶって信ずるほかに別の子細なきなり。」人を教化しようと思

い込む前に自らが教化されている恩徳と自らも自らの道を歩み続けよとお示し下さっていると頂いた。「親鸞一人がためなりけり」この言葉が再確認される旅であった。

合掌

谷口 正司
いつもより2時間も早く目が覚めて、朝刊を取りに外に出たときには、小雨がパラパラと降っていました。何か、二日間の旅の行く末を暗示しているようで、少し不安な想いがかすめました。旅を終えてみれば、いつになく静かで、スムーズに旅を

「善光寺・戸隠と親鸞聖人流罪の地を訪ねて」の旅行を終えて

終えられたのではないかと思つて
います。私自身、有意義な旅行であつ
たとも感じています。

光照寺旅行のレク担当を自認して
いる私は、昨年に続いて今年もクイ
ズを行うことにしました。なぜ、ク
イズなのかと言えば、昨今、高齢化
に伴う認知症の増加が話題になるこ
とが多くなつており、少しでも脳を
活性化することで、認知症から少し
でも遠ざかることができる方々を増
やせればと、普段から考えているか
らです。

やはり、脳を活性化するには普段
の何気ない脳の使い方ではなく、い
つともとは異なつた脳の使い方が必要
ではないかと思ひます。『とんち』・
『なぞなぞ』・なども、脳を柔軟に
使うためには有効な手段だと思ひま
す。また、『パズル』も脳の活性化
には有効だと思ひます。
車中でのクイズの実施状況から感
じることは、やはり、脳の切り替え
がスムーズに行つていない方が多い
ように感じました。これは、私自身



佐々木先生ご法話



赤倉ホテルにて



浄興寺にて

にも言えることですが。
テレビのクイズ番組では、東大生
が大活躍しています。クイズの答え
を見つめるためには、記憶力だけで
はなく、視点の切り替えなどの思考
力も必要となつてきます。
東大生にはかないませんが、皆さ
んも、クイズ番組で出された問題を、
視点を変えて考えたり、問題作成者
の意図を探つたりなど、脳をより多
く活動させることで、たとえ、答え
を見つけれなくても、その答えを
知つたときに、あのアハ体験ができ
るのではないのでしょうか。
ボーっとテレビを見ていないで、
認知症から遠ざかるためにテレビを
利用してみませんか。
今回の旅行で私は、実行力の平山
幹事長・強大な記憶力とプロ並みの
ガイド手腕を發揮した淡海さん・気
配りの副任職様に、おんぶに抱つこ
状態にて、無事終えることができた
ように思ひます。
そして、今回の光照寺旅行に参加
された御同朋の皆様のご協力のたま

ものと感謝いたします。
旅行に参加された皆様、ありがと
うございました。
最後に、次回以降は一同朋として
旅行に参加できることを切に希望し
てやみません。
宗祖に思いを馳せて(信州・上越)
副任職 池田 孝三郎
今回、ふとしたご縁で「戸隠と宗
祖親鸞聖人が関わりがあるよ」と聞
いたことから、是非、訪ねてみたい
という思いから、旅行幹事さんにご
相談したところ実現できて大変嬉し
く思ひました。
宗祖は善光寺での和讃を詠んでお
りますし、百ヶ日逗留してお参りし
ておられたということが聞いており
ました。しかし、戸隠とのエピソード
はあまり聞かれないことがあり、
戸隠というところと神社が有名とい
う認識しかありませんでした。今回
訪ねた戸隠神社宿坊武井旅館(旧中
道坊 行勝院)には、宗祖のお堂が
あつたり、宝物が残され、宗祖がこ
こに百日程ご滞在になつたと伝えら
れているというお話も伺ひました。
戸隠神社は、平安時代末は修験道の
道場として都にまで知られ、神仏混
交時には戸隠山頭光寺と称してお
り、明治になり神仏分離の対象とな
つて寺は切り離され、宗僧は還俗し
て神官となり、現在の戸隠神社とな
つたと云われます。長い歴史の営み
に織りなされて今日に至つていま
をまざまざと感じました。宗祖は

越後での生活のあと、戸隠や善光寺
で何を思ひお参りしていたのでし
うか。そのことに思ひを馳せること
で、宗祖のことがより身近に感じら
れてきました。
居多ヶ浜には何年か振りに来まし
た。この地に立つと日本海の荒波と
共に上陸した宗祖のことが偲ばれま
す。宗祖の著作には海という表現が
多く拝見します。穏やかな海、荒々
しい海、様々な日本海の表情を目の
前にして人間的心というものを投影
したことでしょう。
浄興寺については歴史や縁起を学
びました。大谷派宗門の歴史だけで
はなく、もっと視野を広げて真宗の
歴史を尋ねることも大切だと感じま
した。
赤倉ホテルはロビーの大きいお内
仏は、お念仏を届けていきたいとす
る創業者の心の現われです。ホテル
で佐々木玄吾先生のご法話を頂戴し
ました。越後に師匠上人と宗祖
親鸞聖人が短い期間の出遇いであつ
たにも関わらず、流罪にあつてそれ
ぞれが流罪地で生活を余儀なくされ
ることになります。お念仏の心を
しっかりと受け止めた宗祖において
は、知恩報徳のご精神で自らの立脚
地を歩まれたことでしょうか。「師教の
恩致」を私たち一人一人がどう具体
的に頂くかが問われたことでした。
今回、様々に目が啓かれる思いで
旅行が出来ました。佐々木先生、旅
行幹事様、参加者の皆様に感謝申し
上げます。合掌

直弟子善性坊に思いを馳せて

池田 孝次郎

親鸞聖人ゆかりの地に行きたくても、普段はなかなか繁忙で行けないものである。お寺の旅行は普段行けないゆかりの地に改めて思いを馳せて御同朋と共に巡ることができるとても有り難い。初めて行けた所が多くてそれだけで大変満足な旅行となりました。特に印象深いのは淨興寺の縁起(異説あり)についてである。聖人が京に戻る際、直弟子二十四輩の第九番目の善性坊に任職を譲り開基されたところ。一般の伝承では稲田の西念寺が聖人上京後のゆかりの念仏道場(お寺)と位置づけられているが、この縁起には驚いた。確かに、親鸞聖人の頂骨や第七代までの歴代門主の御遺骨が納められており、本山東本願寺に分骨をしている史実があること、東西分派の際に東本願寺から「同格一門」の待遇を受けて「中本山」の格式を認められた史実があること(享保年間に本山と対立し格式は剥奪されるも後に関係は回復)には恐れ多いものがある。また、その開基の善性坊は御消息集(善性本)を書写した直弟子として有名であるが、善性坊を調べてみると、なんと法然門下・親鸞聖人を流罪に処した、後鳥羽上皇の第三皇子であった。比叡山の僧侶となり修行に打ち込むが、山を下りて稲田に向かい親鸞聖人の弟子になったというから実にドラマチックではないか。親鸞聖人と弟子善性坊へ思いを

馳せてみた旅行である。光照寺並びに幹事の皆さまには大変お世話になりました。有り難うございました。

光照寺旅行の感想

石尾 實雄

この度は長野上越の旅行を楽しみました。副住職様はじめ各担当の方々お世話様でした。特にあの有名な善光寺へ行けたこと誠にありがとうございました。又、ご案内の方のお話にも感動致しました。又、バスの中での雑談や、催し物では歌を唄ったりしました。私は演歌が好きで北陸富山を題材にしたカラオケ成世昌平の「はぐれコギリコ」を夜の二次会で唄いました。とても気持よかったです。これからは旅行その他の会には出席させて頂きますのでどうぞよろしくお願い致します。この度は皆様方どうもありがとうございました。

親鸞聖人御旧跡を訪ねて

(信州・上越方面)

大塚 陽子

今回一番印象深かった場所は、長野の善光寺を参詣し、その後、武井旅館(宿坊)や戸隠神社を訪ねたことです。

親鸞聖人は、流罪の後、善光寺へは立ち寄りお参りされていることは、以前の旅行の時にも訪ねて知っていたが、戸隠神社や宿坊にも滞在していたということが分かり、歴史的にはあまり記述がないが、武井旅館には親鸞聖人にまつわる物や

話しがあり、実際に立ち寄り、山深い中を歩いて善光寺へ向かわれて、また関東にも行かれたと思うと、親鸞聖人の流罪の時代の様子を感じるものがありました。

幹事さん、並びに光照寺には、大変お世話になり、有り難うございました。

感想

岡田 ノリ子

今回の旅行は親鸞遠流の地、居りヶ浜。親不知子不知の乱れ狂う真黒な日本海の難所をどうやって越えてこの地におられたのでしょうか。海路でしょうか、又、自力の足でしょうか。想像すればする程容易ではないはず。悲しみに打ちひしがれた身をいのちがけでやっとこの地に着かれた事と推察致します。そして泣きながら死罪になった友にすまぬゆるせよとわび、我身をせめ事の重さにつらい悲しい表現の出来ない思いをされ、ご自分はこの土に力一杯そそごうと決心された事でございましょう。恵信尼さんは京都の貴族のお生まれであり、自分ではお子はお育てしない高貴な生活をされておられました。恵信尼さんは小さいお子二人をつれ親鸞と共に越後に下られたのです。想像すると知らない地です。想像すると知らない慣れない生活に困惑されたことでしょうか。御二人は深い心の結びつきがあればこそ、不自由な生活にも取り組まれた事でしょう。慣れない生活

の中で初めて武士、農民、漁民の生活を知られ、人間とは何か等、親鸞とお話をされ流罪が解かれる迄大変きびしかったと思います。

糸しんの里では五輪塔のいわれを知りました。恵信尼様はご自分の為ではなく親鸞様の三回忌に当る為の供養塔をお造りになりました。

旅行のあとで

佐々木 玄吾

家に帰ってから新潟県の地図を拡げて「親鸞聖人流罪の地を訪ねて」の場所を探した。そうして末娘の覚信尼に宛てた恵信尼消息を読んだ。「あれは観音にてわたくし給うぞかし。あれこそ善信の御房よ」と夢を見たことが記されてあった。自分の夫を観音の化身であると信じた恵信尼は親鸞と別れて一人上越の地で八十七才まで暮らした。娘の覚信尼の子が覚恵である。覚恵の長子が覚如でこれが本願寺三世であり、親鸞の曾孫である。私は今回の移動聞法会で「これ猶師教の恩致なり」という話をした。この内容は覚如上人の「御伝鈔」の文章である。親鸞聖人が亡くなられて八年後に生まれた覚如によつて本願寺の基礎は固まった。恵信尼「覚信尼と続く女性の血脈を憶い、仏法は女性が伝えた」という言葉にうなづくことである。糸しんの里記念館に掲げてあった恵信尼公の絵像が懐かしく、いつまでも私の胸を満してくれている。

「親鸞聖人流罪の地を訪ねて」

佐々木 文子

昨年秋の光照寺の旅行では、北陸の親鸞聖人ゆかりの地を訪ねることが出来て、とても嬉しかったです。一番印象が深かったのは居多ヶ浜でした。恵信尼様との生活の地に立って、多くのご苦勞を偲ばせていただきました。

師法然上人に続いて又、親鸞聖人も流罪になりながらも、「これ猶師教の恩致なり」と、周りの人々にお念仏を勧められたおかげで、現在、私どもがお念仏申して日々生きさせて頂けることを有難く思います。御寺族や役員の方々には大変お世話になりました。有難うございました。合掌

旅の思い出

佐々木 みつ

今回光照寺様より旅行の案内を頂き早速参加しようと思いましたが、現在は体調も悪く皆様に御迷惑をかけることが気になりあきらめていましたが三ヶ月先のこと杖を使っても是非皆様方とお逢いし、又、親鸞聖人の助けで戸隠方面まで行きたいと毎朝の勤行後は願いました。

観光バスの中では幹事様方、淡海様の説明で行く先々が良くわかり紅葉を見ながら楽しく、心の中で南無阿弥陀仏を称えていました。

小雨の中、恵信尼様の記念館で関連書物等の展示を見て廻り亡くなる前に五輪塔を計画されていたとか歴史を感じ御苦勞された様子がわかりました。

ホテルでは館内に立派なお内仏があり佐々木玄吾先生の聞法、翌朝の勤行の後のお茶、おはぎのおいしかったこと、忘れられません。

午後からは居多ヶ浜に行きおたやかな日本海から岸辺に付かれた親鸞聖人が見た様に感じました。小布施では天井絵を見上げ色の美しき、八方睨み鳳凰図が印象に残りました。この度は幹事様方の御苦勞に感謝でいっぱいです。住職様の元気なお顔が見られます様祈つてます。合掌

今年も縁あって十月下旬の紅葉の盛りに光照寺の旅行に参加させていただきました。お陰様で同朋の皆様とともに楽しい二日間を過ごすことができました。

信州と上越の旅

藤原 自雄

光照寺の旅行は普段の旅行とは違い真宗に縁の寺院や旧跡を巡ることが多く、毎年楽しみにしております。昨年は身近な湘南・鎌倉の日帰りの旅でしたが、今年は一泊二日の信州・上越への旅ということで心待ちにしておりました。殊に上越は私にとってこれまで馴染みのなかつた地でしたので、今回の旅でその風土や歴史に触れて色々と感じるところがありました。

旅行では多くの親鸞聖人縁の神社、仏閣、旧跡などを巡りましたが、



居多ヶ浜にて



居多ヶ浜より日本海を望む



念仏池にて

その中で特に私の印象に残っているのは、親鸞聖人上陸の地である居多ヶ浜です。記念碑のある展望台から見る日本海は波も比較的穏やかで、遠くには佐渡島が霞んでいました。流刑の地・越後に上陸した時、三十五歳。聖人はどんな思いで舟の上からこの地を望まれたのだろうか。そんなことを考えながら海岸線を見渡すと、遠くに見えるのは柏崎原子力発電所。八百年の時の隔たりを超えて、改めて頭の中で当時の風景を描いてみました。そして、前日の夕方、宿泊先の赤倉ホテル到着後、佐々木玄吾先生からいただいた法話を思い出しておりました。講題は「これ猶師教の恩致なり」でした。承元の法難で越後への流刑に処せられた親鸞聖人が前途を悲観することなく、むしろ辺鄙の人々を教化する機会を与えて頂いた、有り難いことだと、その後に考えられた。このことが、その後の聖人の精力的な活動の出発点となった。佐々木先生の法話を、

この様に私はいただきました。今回の旅行で初めて居多ヶ浜の高台に佇んで私が感じたことは、親鸞聖人の布教への強く熱い思いでした。総てはここから始まった。その後の東国での長きにわたる活動も、帰京されてから九十歳で入滅されるまで続いた活動もここから始まった。時間を超えて聖人に少しでも触れることができた様な気がして、有り難く、穏やかな気持ちにさせていただきました。今年も色々な思い出を残してくれた旅行となりました。旅の最後に立ち寄った小布施の岩松院もとても素敵でした。以前お参りしたことがあつて、今回は二度目でしたが、とても気に入った寺でしたので、思いがけず立ち寄ることができて良い思い出となりました。旅行幹事の皆様をはじめ、共に旅行をさせていただいた皆様には色々とお世話になりました。ありがとうございます。合掌

お知らせ

寺務所より

◆法要のご案内

●春季彼岸会法要 三月二十一日(木)、午後一時三十分より厳修

◆光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中。別紙案内をご覧下さい。総会は六月三十日。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会
講師は延塚知道先生(大谷大学名誉教授) 三月十九日、五月二十八日、七月二十四日、午後一時半〜四時半。『教行信証』を学んでいます。

●大経の会

三月三十一日、四月二十七日、五月二十六日、午前十時〜午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。『正信偈讃仰』(六)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

三月十二日、四月十五日、五月十四日、午後二時〜四時まで。「真宗の簡要」(任職著)サブテキスト「無量寿経に聞く」(松原祐善著)。「無量寿経に聞く」(下巻)(延塚知道著)を学んでいます。講師は住職。

●微風学会

毎月開催。午後七時〜九時まで。

講師は副住職。「親鸞における現生不退の視座」(副住職著)サブテキスト「今日のことば」真宗の生活」を学んでいます。三月二十六日、四月二十三日、五月二十日。

◆聲明サークル「響き」

第六期聲明サークル。二ヶ月に一回開催、二年間。日常勤行を楽しく学んでいます。興味ある方はご参加下さい。次回、三月二十六日、五月二十日。講師は副住職。

◆絵解きサークル

親鸞聖人、蓮如上人など、絵解きを通して学んでいます。興味ある方はご参加ください。四月二十三日、六月十四日、二十四日。

◆さいたま親鸞講座

午後二時〜四時。会場は大宮川鍋ビル。四月十三日、六月十五日。講師は四衢亮氏。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご利用下さい。住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しくお願ひします。

俳句・川柳

吉澤 光昭

真新しランドセル背いお年玉
宝船見いてすがしき寝覚めかな
生きがいの予定は多し初暦

おあめした 江部 良吉

お年賀の天皇ご一家きらきらし
遠富士の白扇拌む大旦那
七草粥ふかば和色の彩立ちぬ
初ゆめは猿に喰われてしまいいけり
酒くさ息吹き交すおめでどう
目覚めて夢なお續く春の山
「新年号」俟たるる日なり雁帰る

山田 恒

あの人の笑顔に右脳動き出す
流れ星冬を切り裂く音がする

短歌(詩)



佐々木 玄吾

朝勤め欠かさじと嗜む道宗の
心学びて勤行続けん
公園の六百メートル周回路
鼻水垂らし三周歩く

山田 恒

今朝の陽が性善説を連れて来て
私の周りをふんわり包む
高層のペランダから見る白い富士
両手を広げ朝を吸い込み

赤秀 品枝

われはよしわれは正しと年の暮れ
亡き先達はいかに思わん
手を傷め先師の言葉思い出す
御念仏のご催促だと



パン 山田 邦興 画

梵鐘

「もつとやさしくして」と孫に
いわれます。「やさしくしてくれ
る人」は好き、「怒る人」は嫌い
と。「やさしい」とはどういう事
なのと問い返してみます。自分
都合の良いことを言っ、思うよ
うにしてくれる人だと考えている
ようです。何か間違いがある時に
指摘してくれるのも「やさしさ」
だと説いて聞かせます。人はね、
自分に不都合だったり、感情が高
まったりしていると大事なことが
見えなくなってしまうの。大人も
子供も自分のことが一番好きだか
らね。よく観察すると自分の正体
がみえるよ。「ワァー、二人とも鬼
だ。」と孫。ある休日の会話。
釋尼雅亮